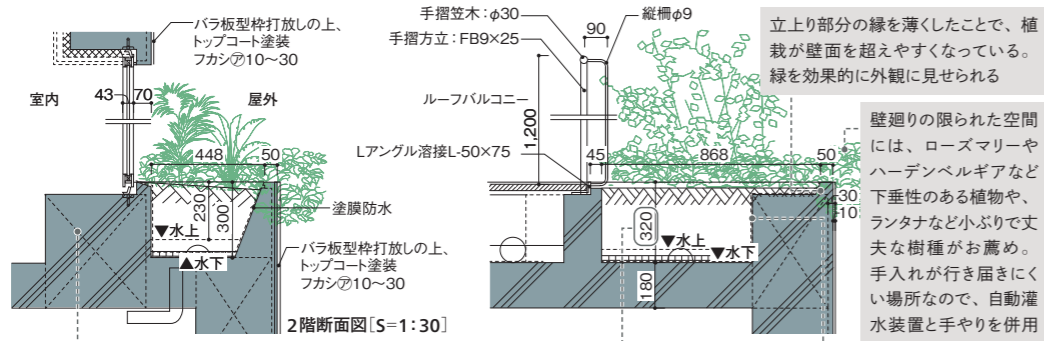


⑥ 外壁仕上げで植栽を効果的に見せる



都市部では、地上に植えられる植栽の量が限られる。そこで、壁面や屋上を利用して植栽を配することで、緑豊かな外部計画が成立する。ここでは、ルーフバルコニーの外周に屋上緑化スペースを設けた[右図]ほか、2階の建物のボリュームを1階より500mmほど後退させ、窓の前に空間を設けて逆梁とし、植栽スペースとした



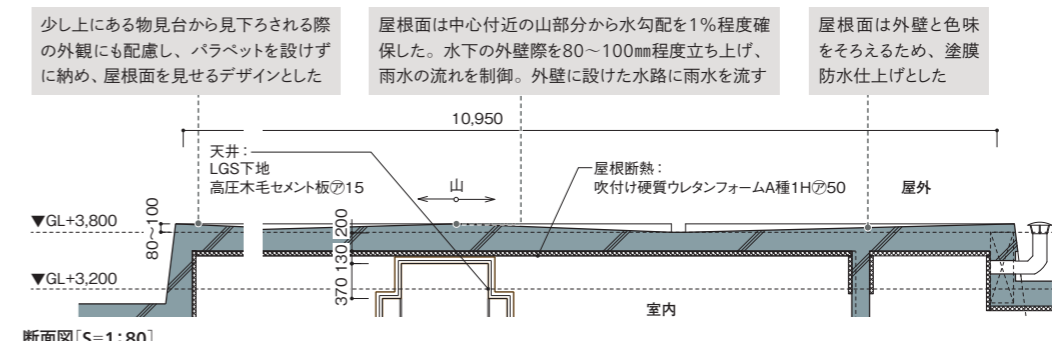
隣地の立体駐車場の調和を考慮し、打放し仕上げとした。厚さや幅の異なるパラ板型枠をランダムに配置して、あえて野趣溢れる仕上げに。打放しの壁面に表情をつけたことで、コンクリートの素材感を残しながらも、植栽ともなじみやすい風合いを演出した

植栽をきれいに見せるには、植物が育ちやすい環境をつくる必要がある。根が育たないと植物は伸びないので、土の深さは600mm以上確保するのが望ましい。ここでは300mm程度だが、植える間隔を調整して根が広がりがよくしている

3階断面図[S=1:30] 壁廻りの限られた空間には、ローズマリーやハーデンベルギアなど下垂性のある植物や、ランタナなど小ぶりで丈夫な樹種がオススメ。手入れが行き届きにくい場所なので、自動灌水装置と手やりを併用して水やりを行う

RC造

④ パラペットを設けずに納める



屋根からの雨水を地面に流すため、幅150mmの水路を外壁面に設けた。型枠に曲げ合板を用いてRをつけ、壁面を75mmほど立上げている。屋根からの雨水は外壁周囲の浸透枘に集水する



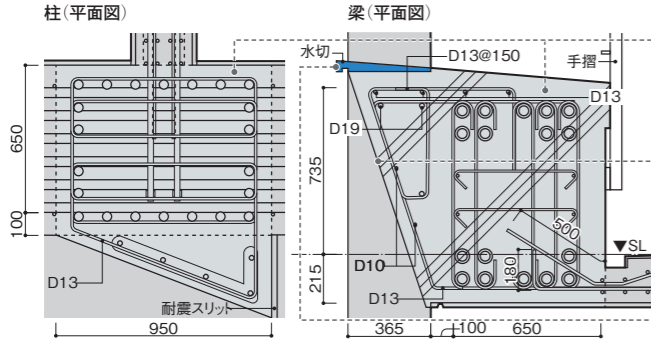
地面の色味となじませるために、外壁はシリケート塗料[※1]含浸染色を2回塗りとした。シリケート塗料は下地に含浸し、化学反応によって素地と一体化するため、コンクリートのムラを生かしながら自然な色味を付加することができる

「カイク・コンクレタール・ラズール」(SKW イーストアジア) 3,600円~4,200円/m<sup>2</sup> (材工)

RC造

ハーフプレキャストコンクリート工法

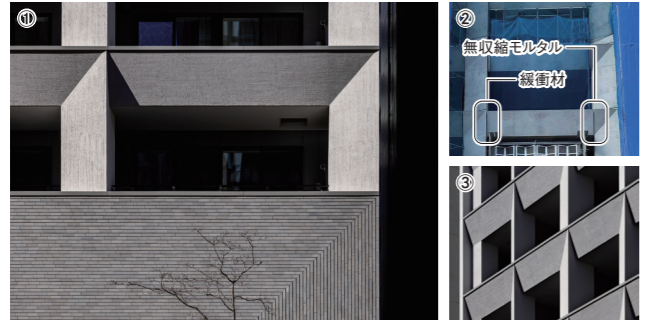
⑦ ハーフプレキャストコンクリートでエッジの効いたファサードに



柱・梁をアウトフレーム化したうえで、逆梁方式を採用。道路面のみ、柱・梁にハーフプレキャストコンクリート(ハーフPCa)工法を採用した[※3]

柱・梁は台形断面として壁面に角度をつけた。エッジの効いた外観、微妙な勾配・角度がついた意匠は、ハーフPCaならではの。施工時に型枠の微調整が必要な現場打ちコンクリートに比べ、施工性を損なわず意匠性を高められる

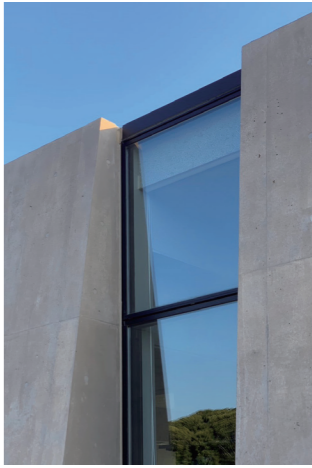
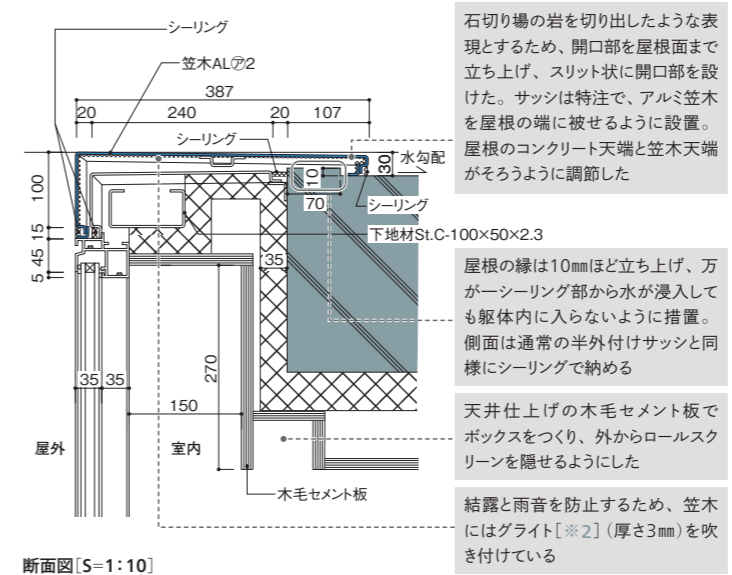
ファサード面への雨垂れを防止するため、先端に水切を設けたうえで、梁天端の勾配を内側にに向けた



建設地付近の伝統工芸品である江戸切子をイメージした陰影のある外観。タイル張りだと剥離が懸念されたため、塗装を採用した。サンドセラミック調塗装仕上げ塗料を撒き仕上げとし、陰影をより印象的に表現した。一方、軒天井や梁天端など目立たない箇所はアクリルリシン吹付けとしてコストを抑制。シンプルでありながらも変化に富んだファサードとした。写真②で示した箇所をPC間のジョイントとすることで、柱梁間の斜めのラインが施工性に左右されず、美しく見えるよう工夫している「サンドエレガント」(エスケー化研) 5,760円/m<sup>2</sup> (材工)

RC造

⑤ サッシを屋根まで立ち上げる



石切り場の岩を切り出したような表現とするため、開口部を屋根面まで立ち上げ、スリット状に開口部を設けた。サッシは特注で、アルミ笠木を屋根の端に被せるように設置。屋根のコンクリート天端と笠木天端がそろるように調節した

屋根の縁は10mmほど立ち上げ、万が一シーリング部から水が浸入しても躯体内に入らないように措置。側面は通常の半外付けサッシと同様にシーリングで納める

天井仕上げの木毛セメント板でボックスをつくり、外からロールスクリーンを隠せるようにした

結露と雨音を防止するため、笠木にはグライト[※2](厚さ3mm)を吹き付けている

石切り場らしい深い陰影ができるように、壁式構造を選択して梁をなくし、外壁より開口部を後退させて、屋根が切り欠かれたような意匠とした

RC造

⑥ 「eM/PARK BLDG.」設計: 古谷デザイン建築設計事務所、写真: 山内紀人 | ⑦ 「メゾンカナル日本橋馬喰町」設計: 三菱地所設計、写真: 川澄・小林研二写真事務所 船来洋志(①・③) | ※3 ハーフPCa工法は、PCa工法とは異なり、工場で製作した一部のPCa版を現場で組み立てて兼用型枠として配置し、中詰めコンクリートを充填する工法。型枠設置・脱型の削減による工期短縮や、精度の高い施工が可能。仕上げやプランが規格化できるため、高さ31m以上の高層共同住宅に積極的に採用されている。この事例では、建物すべてをPCa工法とし、大きな能力のタワークレーンを不要としてコスト面で優位性をもたらしているほか、躯体補強の増加、仮設開口の拡大などを防いでいる

④・⑤ 「たがやすいえ」設計: 古谷デザイン建築設計事務所、写真: 山内紀人(④のみ) | ※1 ケイ酸ナトリウム(水ガラス)を使用した塗料 | ※2 ヘル石を骨材とした吹付け材。結露防止や吸音などに効果がある